平成２１年度活動報告

平成 21 年度の主な活動を次の通り報告します。(最新情報から掲載しています。)

平成 22 年 3 月、「竹垣整備隊」、「ありがとう印旛高校展」が開催されています。

左：印旛高校展のポスター　印旛高校は明治 34 年（1901）開設。成田鉄道開業の年でもある。それから 110 年、印西の歴史を見つめ、多数の有為の人材を輩出してきた。平成 22 年度から「印旛明誠高校」として、印西牧の原駅近くの千葉ニュータウン内に移転した。
右：展示状況及び高校ＯＢの方によるふるまい。3 月 27 日、ＯＢの方が多数、来館した。地元の高校だけに写真をみては旧交を温めてていた方が多かった。21 年秋に吉岡まちかと博物館は「追悼　鈴木元臣短歌展」に合わせ、リニューアルした。穴あきボードを設置し、展示が容易となった。その第二段である。多くの市民の方により一層活用してほしい。

左:竹垣整備を行う塾生　縛り方は慣れないと難しい。それでも 5 年振りの作業に取り組む。また、この事業に賛同する 3 人の塾生の方が現れた。頼もしい。
右：最年少塾生現る（伊藤会長と落ち葉を運ぶ）
　　塾にも最年少（園児）の頼もしい塾生ができた。孫とも見まがう様子に塾生一同は何かとても暖かいものを感じる幸せなこの日であった。近所に住んでいるという。是非、また来てほしい。塾の女神である。

（日）恒例の町屋雛祭りが武蔵屋まちかど博物館にて開催され、霙交じりの悪天候ではありましたが 130 名の市民の方が参加され、盛況の内に終えることができました。

左：この日の武蔵屋まちかど博物館。明治期旅館でもあったこの建物は平成 15 年から大きく運命を変え、今は木下を代表する市民交流拠点となっている。
右:地元ＴＶ局のインタビューをうける武蔵屋当主岩井宗志氏。氏は木下夢探訪の代表でもある。市はこの建物を更に安心・安全に使うべく、印西市に改修要望を出している。これを更に強力に推し進めるべく署名運動を開始した。市民の皆さん、是非、署名下さい！

左：展示された雛飾り。古民家内に飾られた雛飾りはいつ見ても心が和む。今年は三回目。毎回毎に他の市民からの雛飾りが増えてきている。 右：印西茶道連盟の方々。古民家には着物がよく似合う。また、お茶のもてなしも古民家の雰囲気にはぴったりである。今回も茶道連盟の方にはお世話になった。ありがとうございました。		
左：武蔵屋まちかど博物館二階に展示されたミニ雛（お盆の上）これはご近所の女性の手作りの作品である。とても可愛い。来年は市民を対象に手作り講座を開催したいねという話題で盛り上がった。 右：館内の諸所に飾られたミニ雛。今回は各所に他の市民からも協力を得て多くの雛が展示された。どれもとても雰囲気にマッチしているのが不思議である。		
左：お茶のもてなしをうける来館した市民達。雨の中、ご来館いただいた。このように気軽に「お茶」をいただけることが嬉しい。寒い中、お茶が一層、温かく思えた。 右：お父さんと来館した童女。彼女に武蔵屋まちかど博物館での体験がとてもいい思い出となることを祈念している。こうした幼年時のいい体験を多く体験させるのも親の務めでもあると思う次第である。		
左：藁細工を実演する市民団体の方々。今年も更に市民の連携が拡がった。この他、大正琴の実演もありました。 右：木下煎餅の体験テント。木下煎餅は筆者も好物である。薄い生地は歯ごたえ良く、口内で気持ち良く割れる。他の厚い煎餅とは全く異なる点である。その他、甘酒、草餅の振る舞いもあった。武蔵屋町屋雛祭りは木下を代表するイベントになってきている。これも武蔵屋まちかど博物館があるが故である。いつまでも保存したい。		
2 月 21 日～3 月 7 日まで市民団体（岩井宗志代表）を中心に、東京電機大学、千葉大学、日本電子専門学校等による協働で木下万葉公園下で「ビッグ雛祭り」が開催されています。		

左：姿を現したビッグ雛。巨大な雛。交通量の多い、国道 296 号線バイパスからもよく見える。時ならぬ巨大な展示物に多くの市民が感嘆の声を挙げていた。木下にまた名所が一つ増えた。それにしても素晴らしい住民パワーである。
右：雛の背後の河津桜。早咲きの河津桜。筆者も数年前、伊豆の松崎町で見たことがある。可愛い桜である。これも木下の名物にしたい。

巨大な男雛と女雛。男雛高さ 6m、女雛は 5m。顔だけで１ｍという。体は一面パンジーに覆われている。青、黄、白が美しい。鉢の数は約 5000 株。最終日の 3 月 7 日には解体され、パンジーも 20 株 500 円で販売される。部材は全て来年のため保存される。
この財源は印西市まちづくりファンド、いきいきラーバン助成金その他商店街、個人の寄付金である。
　この企画はマスコミも大きく取り上げられ、ＮＨＫ総合 TV でも大きく報道された。平成 16 年、吉岡まちかど博物館の開館に際し、報道されたことを思い出した。着実に市民が育ちつつある印西市である。
　しかし、秋のよかっぺ祭りから市の撤退もあり、開催が危ぶまれている。市民と行政の協働がなければ良くならない。一肌脱ぐことは継続すべきであると思う。

平成 22 年 1 月 28 日、吉岡まちかど博物館へ今年、最初のお客さんが来ました。木下の将来を背負ってたつ木下小の諸君です。そういえば、平成 13 年度から平成 17 年度まで毎年、木下小と総合学習の授業を木下まち育て塾が担当したことも懐かしい思い出ですね。

本日木下小学校の六年生５２人が、木下河岸を学ぶため、吉岡まちかど博物館に来館しました。担当の会員は、大貫・谷岡・伊藤でした。子ども達は、当塾の会員でもある宿城元木下小学校長と担任の先生に引率され、利根川の堤防にある木下河岸跡の看板を見た後、木下河岸問屋であった吉岡まちかど博物館で、明治期に活躍した蒸気船「銚港丸」で使われていた姿見や銭箱、木下貝層で造られた灯籠などを興味深く見学していました。もっとも興味をもったのが、明治後期の木下河岸のイラストのようで、木下小学校はどこ？の質問にみんな一生懸命に見つけていました。帰りに子ども達に今度は家族で見に来て下さいとお願いしました。以上、伊藤特派員からの報告でした。

吉岡まちかど博物館前庭で

熱心に説明を聞く木下小の諸君。右上に伐採した竹が見える。竹垣用です。

12 月 20 日（日）、天気晴朗。午前 9：14、木下駅発（ＮＴの塾生は千葉ＮＴ中央から）。10：05 東武野田線野田市駅着。途中、運河駅から利根運河を見る。この日参加の塾生は８名。早速、野田市郷土博物館へ行く。この日、案内していただく「むらさきの里　野田ガイドの会」の斉藤さんに面会。緑のはっぴを着ている方です。午前中は市内散策、茂木家、民家、近代建築、お土産さんたっぷり紹介していただきました。午後は、郷土博物館で開催中の企画展を斉藤さんの解説で見学した後、「まちなみ研究会」のＡさん、斉藤さん、Ｅさんと塾生が市民会館で有意義な意見交換を行いました。
　この日は久しぶりに他団体と交流ができた。同好の士との交流は大変いい刺激であった。次回は木下へ来ていただくこととしてお別れした。

左：野田市市民会館（旧茂木佐平治邸　大正 13 年　国登録有形文化財）で記念撮影。筆者はここは 3 回目である。いつもながら茂木家の財力と何よりも何度も聞く、市民還元の姿勢に好感を抱いている。ここも完全に市民開放されている。羨ましい限りである。
右：野田市で最も有名な建物、興風会館（大森茂、昭和 4 年）。この建物のすぐ北にキッコーマン本社がある。市民と共に歩む巨大企業の存在は羨ましい。

左：郷土博物館で開催中の企画展。まちなみ研究会は 30 名の会員とのこと。歴史と文化、中心市街地活性化、都市計画の三本柱で文化の駅・野田を再生するとのこと。景観では真っ先に電線除去が挙げられていた。通りのネーミング、案内板の作成が強調されていた。木下でもすぐできる内容である。
右：市民集いの間で意見交換をする塾生とまちなみ研究会の方々。商工会との連携、建築士会からの助成、景観フォーラムが印象深い。また建物のイラストがとてもよいマップはとても上品で木下でもつくりたいものであった。最後に会員増加策では「他団体との交流、連携」という答えがありました。会自体には会員は少なくても連携することで異能集団をとりくめるとのこと。それがきっかけで会員になることもある。木下まち育て塾でもやらねば。絵画、写真その他何でも良い。幸い、吉岡まちかど博物館の内部は展示スペースとして再生したばかりだ。

12 月 5 日（日）、この日は「追悼　鈴木元臣短歌展」の最終日。これを記念して、鈴木元臣氏のお孫さんにあたる徹さんの三味線ライブを吉岡まちかど博物館近くの「コスモスセンター」で市民 60 名を集め、開催した。当初は吉岡まちかど博物館前庭での予定であったが冷たい雨が午後 3 時より降り始め、急遽、会場を変えた。これだけの参加を見越しておらず、会場変更は大正解であった。
　木下まち育て塾の 21 年度の大きな事業が終わった。ご来館、ご支援、ありがとうございました。
　それにしても鈴木元臣氏のご家族とは、筆者の両親とも同世代、ご子息も筆者と同年齢等何か近しい気持ちを抱いたこの間であった。

左：最終日となり、名残惜しく作品を見るご遺族の方々と短歌会のＡ氏
　　夕方 4 時、ライブも終え、吉岡まちかど博物館内では短歌の取りはずしがあった。多くの市民、短歌人を集めた企画展もかくして終わった。
右：館内を埋めた市民　沢山の市民が集まった。鈴木徹さんのライブを聞く。氏の軽妙なトークと津軽ジョンガラ節は本企画展を飾るに相応しい催しであった。

左：鈴木徹氏　氏は 2 年余り、三味線をもち世界一周をしてきた。帰国後、中央公民館でも旅の経験談と三味線を弾いた。
右：津軽じょんがら節他多数のレパートリーをもつ。軽快なタッチで会場が沸く。素人と謙遜するが先生もつき、やはりかなりの腕前である。後で何故、三味線かときいたところ、やはりここに鈴

木元臣氏が影響があった。「日本人としての芸を身につける」というアドバイスがあった。海外へ渡航する日本人が多いが日本文化を披露できる日本人がどれほどいるのか。海外へいけばいやでも「日本人」としての自分を意識する。筆者も20年ほど前を思い出し、そんな感慨が再び襲ってきた。

11月22日（日）、昨年二続き、二回目となった金原亭馬治さんを招いての「町屋寄席」が武蔵屋まちかど博物館で開催された。天気晴朗のこの日も70名の市民を迎え、満員の盛況であった。山崎市長の挨拶もあり、前座として昭和の町村合併時の映画を上映した。今回も1500円で茶菓子付であった。木下の饅頭、煎餅である

左:この日の武蔵屋まちかど博物館と塾生達　W女子塾生お手製のはっぴをきて、準備に余念がない塾生である。
右:この日も寄席を待ち兼ねた市民がこの古民家に集まった。年に二度はこのように大勢の市民を迎える武蔵屋まちかど博物館である。ご当主の熱い想いが市民に伝わった。

左：高座の金原亭馬治さん。市内のあちこちでお声がかかる。すっかり有名人になりました。昨年より一層、上手くなった様な気がします。
右：夕闇をいろどる竹灯篭。木下夢探訪の人たちが点灯しました。今年も竹に蝋燭の明かりが寒空に暖かく光を放っていました。

11月7日、吉岡まちかど博物館で吉岡家庭に自生する竹を伐採し、吉岡まちかど博物館の景観整備事業が始まった。今回は新たに二名の方が加わり、盛り上がった。この竹垣整備は春までに伐採、製材、来秋までに竹垣を整備します。

左：竹を伐採する塾生
　この日、新たにＮＴ地域及び大森から新人塾生を迎えました。共に汗をかき、まちの再生に寄与していく。すがすがしい汗である。
右:伐採した竹を製材する女子大生塾生　当塾には女子大生塾生もいます。20代会員は唯一彼女だけです。この日は張り切って慣れない鋸を使い、器用に切りそろえていた。何故か作業を共にしたがる塾生が多かった。？！

左上:新人塾生と歓談するN設計部長。「いやー、一服しましょう。先は長いし」っと。吉岡まちかど博物館改修計画を一手に担う建築士でもあるN設計部長。竹垣整備図も作成した。

左中：慣れた手付きの伊藤会長、O塾生　伊藤工務店社長といってもよい。この姿を見ただけでも

大工仕事に精通していることがわかると思う。。手前は鉄道博士こと０塾生

右:Ｈ工務部長の勇姿　今回の竹垣整備の最高責任者である。この頼もしい姿に実現への意欲がよく表れている。建仁垣、四つめ垣の美しい景観がこの人の指導のもと美しい姿を見せていることであろう。

以上、まち再生には様々な能力と意欲のある人を必要としている。読者諸兄には、是非一度参加して欲しい。

10 月 25 日、印西短歌連盟の歌人 40 名が吉岡まちかど博物館へ鈴木元臣氏を偲び、来館しました。この日は木更津市から鈴木真澄先生を講師にお呼びして例年通り、木下の印西市中央公民館で市民短歌大会を開催し、約 50 名が参加し、盛況でした。午後 3 時過ぎ、短歌大会を終え、希望者が吉岡まちかど博物館に来館し、鈴木元臣氏の短歌を堪能しました。

左:壁一面に展示された鈴木元臣氏の短歌を見入る参加者の方々。水辺、葉月、山百合、こすもすの各短歌会会員の方が集まった。館内が狭く感じられた。
右：鈴木元臣氏の短歌作品を背景に記念写真。この日は市民短歌大会であった。木更津市から講師としてこられた鈴木真澄先生（前列右）と短歌会会員。鈴木元臣氏もよろこんでいただけたと思う。

10 月 18 日　市民祭り、木下まち育て塾ではこの日、武蔵屋まちかど博物館、瀧田まちかど博物館、二見屋まちかど博物館を開館し、今年も多数の市民が来館しました。

右:吉岡まちかど博物館光景　スタンプラリーで終日混雑した。高額景品で多くの市民がここまで来たが、吉岡まちかど博物館の館内まで来た市民はごく少数であった。
左：訪問者にスタンプを押す吉岡家ご当主
この日、1000 名がここに来た。今年は市役所が何故がこの種の仕事から撤退した。来年は市民団体だけに丸投げの措置に反対したい。

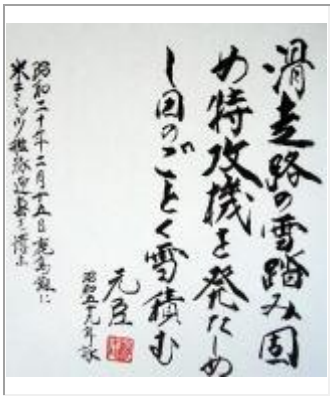
左：瀧田まちかど博物館での塾生二人
この日は晴天、1000 名を超す市民が来館した。ご当主も元気。塩とたばこの史料を豊富に見ることのできる六軒地区を代表するまちかど博物館である。
右：この日の瀧田まちかど博物館

左：二見屋まちかど博物館
　　二見屋も今年は吉岡まちかど博物館と同じように穴あきボードを設置した。展示は印西市役所生涯学習課のＫ学芸員の手による江戸期の木下河岸のパネル 8 枚を展示した。
右：ご当主とＷ塾生
この日はここもスタンプラリー会場となり、混雑した。保存状態の大変よい蔵である。

左：武蔵屋まちかど博物館
　　この日も多くの市民が来館した。東京電機大学の修復作業も進展している。来年が楽しみだ。
右：塾生二人　対応に追われた。11 月 21 日には町屋寄席が開催される。

10 月 18 日「追悼　鈴木元臣短歌展」が吉岡まちかど博物館に於いて、開館 5 周年記念事業として開催されました。会員から提供のあった色紙 10 首、短冊 30 首、そして会員からの弔歌、挽歌 43 首を一同に展示した。改装なった吉岡まちかど博物館に相応しい内容であったと思う。展示及び冊子作成準備に半年を要した。かなり欲張った計画であったがご遺族、短歌連盟、木下まち育て塾のご支援、ご協力によりできました。

左：今回の企画展の代表歌。昭和 63 年に長男辰雄氏が事故でなくなり、その後平成 6 年にこの歌が作られた。子をなくした時の悲しさは第三者には重すぎて表現できない。事故からようやく 6 年を経過し、この歌ができた。時の流れを背後に感じることのできる。この作品は企画展冊子の表紙にも採用した。
右：氏は先の大戦末期、陸軍軍人となった。B29 の邀撃にもあたった。当時の飛行服に身を包んだ写真が残されている。
　いずれにせよ、「追悼　鈴木元臣短歌展」は多くの歌人、市民が来館している。



左：企画展の展示パネル。ここには木下まち育て塾及び印西短歌連盟の両会長挨拶、両団体の歩み、鈴木元臣氏の略歴、氏の写真がある。
右：奥様とお孫様。背後には今回の代表歌「子の逝きし悔しみみづから発條（ばね）として働ききたりし歳月思ふ」の色紙がみえる。お孫さんは近年二年をかけて世界一周をしてきた剛の若者です。氏の最晩年には世界旅行の途にある孫を心配した歌が多い。

左：氏の色紙・短冊を見るご遺族と会員。上段に氏の色紙、下段に短冊をみえる。味わいのある筆致は見るものを和やかにする。
右:会場の光景　ケース内には氏の写真等遺品が展示されている。背後はボードに吊るされた短冊が見える。
この日はお嫁さん、娘さんも来館されました。とても感慨深くみていただきました。

左：吉岡まちかど博物館入口前で奥様（前列左から二番目）を囲む印西短歌連盟の会員諸氏。今年 4 月から毎月一度のペースで打ち合わせを持った。無事、色紙、短冊を展示し、冊子ができた。感謝です。
右：ショーケースに展示した遺品を見つめる奥様。人々が去り、静かになった館内で一人遺品をみつめる姿は寂しさをより一層感じさせた。

10 月 3 日、吉岡まちかど博物館内部が「追悼　鈴木元臣短歌展」に向け、穴あきボードを設置し、本格的な展示室に衣替えをしました。

左：頑張る伊藤会長　ここには今まで 19 年度企画展「木下の蒸気船銚港丸」関連パネルが展示してあった。筆者には懐かしい光景であった。今回、それらを撤去し、吉岡まちかど博物館に新たな歴史を刻んだ。これで多様な展示要求に応えられる。
右：正面奥。穴あきボードは千葉ニュータウンのジョイフル本田で購入したものだ。何でもある店だ。

9 月 8 日、茨城県行方市の方々が吉岡まちかど博物館へ来館しました。茨城県は平成の大合併でかなりすっきりしたような感じがします。

以下は伊藤特派員報告です。
本日、標記の方が１５名吉岡まちかど博物館を見学にいらしゃいました「麻生新庄会」の方は、行方市の外様大名麻生藩新庄氏のゆかりの地、麻生陣屋周辺で地域の歴史的文化資源の案内等に努めている観光ボランティアの方だそうです。本日は、麻生陣屋大通り商店街の会員の方と新庄氏江戸ゆかりの地を訪問する研修会とのことで、蒸気船の航路図や明治後期の鳥瞰図を興味深く見学していました。また、帰り際に庭の柿がとてもめずらしいのではないかと、種で増やしたいとのことでしたので落ちていた柿をプレゼントしました。

空欄

9 月 5 日、印西市の社会実験、ちば・いんざいミニツアー「舟めぐりの旅」の一行 40 名が吉岡まちかど博物館に来館しました。この日、朝は定例会。竹垣整備に向けた打合わせ、そして準備に追われていました。また、この日は木下まち育て塾の記事が『エリート情報』に掲載されたこともあり、その他 20 名ほどの来館者がありました。大変忙しく、昼食も二時過ぎになりました。

左：はっぴを着て来館者に応対する塾生。
千葉ニュータウンイオンに集まり、旧市街地の木下へ市民の方がきた。同じニュータウンの方々に説明するのはちょっとこそばゆい感じです。何時も室内ではＴＥＭ研作成の「明治後期の木下河岸」の図を説明する。そして「ウオーリーを探せ」ではないが、「皆様のいるこの土蔵が書いてありますよ。どこですか」というと、多くの人が急に目を輝かせて探す。参加型がよい。一方的に話を聞くのはつらいものです。
右：吉岡まちかど博物館前の皆様
　この前、ついに 19 年に作成した「木下の蒸気船　銚港丸」もなくなった。やはり、印刷物がないのは寂しい。早く印刷したい。しかし、さきだつものがない。何とかしたい。

8 月 29 日（日）、同志社大学千葉県同窓生会役員の方 5 名が県下各地から参集していただきました。来年夏に企画する下見ということでした

この日は大変暑い日であった。皆様は、来年、木下に来駕する下見のため、朝早くから木下駅に降り立った。来年は50名の方が木下へ来駕するという。嬉しい限りです。それにしても関西方面の大学同窓生の方が50名も来ていただけるとはびっくりしました。ぶらり舟巡り乗場、瀧田まちかど博物館、木下河岸跡、吉岡まちかど博物館、最後に対岸布川の柳田国男記念公苑、徳万寺を案内して別れました。又、来年、会いましょう。

8月1日、印西市の社会実験、ちば・いんざいミニツアー「舟めぐりの旅」の一行40名が吉岡まちかど博物館に来館しました。この日、朝は定例会。竹垣整備に向けた打合わせ、そして準備に追われていました。

一行40名は9時30分、千葉ＮＴイオンモールのコスモス広場に集合。バスで木下へ。ＮＰＯ法人「いんざい水の郷ねっとわーく」が運航する小舟で手賀沼まで周遊、武蔵屋まちかど博物館、木下駅南口の骨董市、銚子屋での昼食、そして吉岡まちかど博物館見学のルートです。これで2000円という格安ミニツアーです。印西市外の我孫子、白井の市民も参加し、満員の盛況でした。
　せっかくの市民交流であったが僅か20分。ほんと
あわただしく来て、あわただしく帰っていったという印象が強く、パワーポイントで印西の歴史を紹介したかった。

暑い、夏。木下まち育て塾では来年度からの吉岡まちかど博物館の本格的補修に向け、行動を開始しました。

左:吉岡まちかど博物館二階で実測をするＮ塾生と伊藤会長。開館後5年、何度も補修してきたが更なる安全・安心を期するためです。印西市の公益ファンドの活用も視野に入れ、22年度実施を目ざしています。今年度はしっかり準備します。塾にはＮ氏のように建築士もいます。多彩な能力を提供し印西のまちづくりに貢献しています。
右：民間ツアー、クラブツーリズモ20名の一行の記念写真。平成17年に続き、二度目の来館です。木下街道を4回に分けて来たそうである。募集案内にはこの日は千葉ＮＴを出発し、木下まで6ｋｍ。吉岡まちかど博物館の後は銚子屋さんで早い夕食のこと。3800円のミニツアーでした。

７月７日（火）、木下小の児童が吉岡まちかど博物館へ来館した。木下小とは平成14年度以来、交流を続けている。木下小の子供達に木下河岸の歴史を伝え、まち育てを教えることは木下まち育て塾の重要な使命である。この日、筆者は参加出来ず、伊藤特派員の報告を掲載します。歴史を学ぶことはまちづくりの第一歩である。更なる交流をしていきたいものである。今、吉岡まちかど博物館には子供達が作成した明治期の木下河岸の絵図を展示している

本日、木下小学校３年生５６人+先生３人が、「木下のじまんさがし」に訪れ、伊藤と谷岡書記長が対応しました。
木下小のみんなは吉岡まちかど博物館に展示してある銚港丸や壊れたラジオ、そして木下貝層でできてる灯籠などを描いていました。
一番喜んでいたのは、２階の床にある格子。みんな下の人に声をかけていました。そして、みんなには今日調べたものをまとめた新聞を学校に展示した後、吉岡まちかど博物館に展示してらえるようお願いしたところ、
全員がハーイ！と大声で答えてくれました。また一つ木下小学校との絆が深くなりました。
現地取材者　てっちゃんでした。

吉岡まちかど博物館の前庭で伊藤会長の話を聞く木下小三年生の児童

吉岡まちかど博物館二階でポーズをとる木下小の諸君

7 月 4 日（土）、国土交通省が後援する「利根川舟運・地域づくり協議会」の市民約 40 名の方が木下に来駕しました。この団体は協議会は，広大な河川空間を持ち，舟運で栄えた長い歴史のある利根川を連携軸として，沿川自治体が相互に連携，協力しあい水面・空間の利用促進及び沿川の交流・連携による地域活性化を図るための事業を展開するものである。http://www.tonegawa-ship.jp/about/。この日は「印西ぶらり川めぐり」、「木下駅南口骨董市」及び吉岡まちかど博物館に来館した。いわば今の印西が誇る 3 点セットを堪能したことになる。河川舟運を軸としたまちづくり、災害に強い、環境に優しいまちづくりでもある。是非、推進を願うと共に、当塾の今後も一肌を脱ぎたいものである。
　この日は木下まち育て塾の月一回の定例会を吉岡まちかど博物館で開催し、今後の計画、吉岡まちかど博物館改修計画、防犯及び美観形成に寄与させるべく、竹垣整備構想を練った。

左：いんざい水のさとネットワークによる六軒川、弁天川川巡りを堪能した後、ここ吉岡まちかど博物館へ 11 時ころ来館した協議会の市民。
右：０塾生の解説を聞く市民　吉岡まちかど博物館への来館者に最も人気のある展示物はＴＥＭ研と協働して作成した「明治後期木下河岸」の図である。皆さん一様にその精密さに驚いている。
この日の様子は
http://www.tonegawa-ship.jp/weblog/を参照してください。

この日、梅雨晴れ。紅葉の木下（こした）は涼しい。朝 9 時、団体のお客さんの来る前に、吉岡まちかど博物館改修計画及び竹垣整備を真剣に討議する塾生一同。
　吉岡まちかど博物館はこの秋に開館 5 周年を迎える。吉岡まちかど博物館は木下河岸の歴史を伝えているが、市民の自主運営による博物館としての歴史をも確実に刻んでいるのである。

6 月 20 日（土）首夏の一日、佐倉市で印旛沼の歴史を学んでいるＡ氏さんが来ました。Ａ氏は筆者のＨＰを見て、印旛沼の蒸気船に関心をもったそうです。そして、一度、交流したいということでこの日が実現した。事前に最近の筆者の「成田山参詣と利根川蒸気船交通」を読んでいただいた。筆者も久しぶりにパワーポイントのスライドを作成した。この日、成田線で来駕したお二入に 9 時 40 分から 11 時半頃まで視聴覚室で上映、濃密な意見交換を行った。この後、筆者お勧めの「うなぎ天ぷら」を食べに六軒の「寿美吉」へ、しかし、この日は何と、定休日。しかし、居合わせたご主人の好意で木下きっての伝統の食を三人で堪能した。蓋し、いつもこれは美味である。皆さんも是非堪能してください。その後、吉岡まちかど博物館へ、最後に「ぶらり川巡り」で 30 分の船旅を楽しむ。

左：吉岡まちかど博物館のお二人。中央公民館でこれまでのパワーポイントで作成した作品を見ていただいていたので、壁に貼られたパネルもよく理解していただいた？！。そろそろ蚊が多くなってきた。
右：ぶらり川巡りの乗船場で筆者と共に　この日、川面をふく風は気持ちよく、牧水の歌碑がある関枠橋では巨大な草魚が水面を跳ね、我々をびっくりさせた。数多の釣り人が見守るなか、30分の船旅を終えた。とても爽やかな一日であった。歴史を通じての交流が久しぶりに実現した。川巡りと吉岡まちかど博物館や武蔵屋まちかど博物館など木下は訪れる人に楽しんでいただけるものが増えてきた。そして鰻天ぷら等伝統の食も見逃せない。

6月7日（日）この日、房総風土記の丘まちなみ探検隊一行と印西こども劇場の元気な子供達が木下の一日を楽しみました。この日、筆者は東京で仕事があり、参加できませんでした。以下は伊藤会長の特派員報告です。これを見ても多様な団体、多様な市民が来街する市民をもてなしている。木下は変わりつつある。

まず、私が案内した「印西子ども劇場」の木下まち歩きは、参加人数が親子併せて５０人弱。午前中ぶらり川めぐりを堪能し六軒の弁天様でお昼御飯。日差しがとても強くみんなばて気味のようで、午後からのまち歩きはちょっとはぶきたいと事務局からいわれた。
しかし、プヨてっちゃんで～す。で子ども達がくいついてきて、みんな元気になっちゃいました。瀧田家の蔵をみてわいわい、途中で久七だんごや関口せんべい、鍋店フードを紹介、危険な道もプヨてっちゃんを先頭に一列になって進み武蔵屋さんへ。ここでもガヤガヤ家中子ども達がいっぱいでした。そして木下駅を見て、川村せんべい、岩崎せんべいを紹介し中央公民館で解散。欠けせんをたべながら解散しました。子どもはいいな～ぁ。房総のむらの街並み探検隊では、集合場所にいきました。参加者１０人、村の職員２人、案内人協会２人、文化班１人の参加でした。見学地は武蔵屋、ぶらり川めぐり、滝田家蔵、木下河岸跡、吉岡まちかど博物館、木下貝層指定地、上町観音堂でした。

瀧田まちかど博物館の印西子供劇場のお母さんと子供達。説明は大貫塾生

武蔵屋まちかど博物館の二階で。町屋空間を楽しんでいる子供達

6月6日（土）、成田市に本社を置く、フリーペーパーの発行、印刷物制作のエリート情報社のＨ氏、Ｏ氏両氏が吉岡まちかど博物館へ来館し、親しく交流しました。

左：吉岡まちかど博物館前の両氏。取材のプロの両氏。ひ弱な一市民団体に紙面を通じて熱いエールをおくってもらいたいと思います。この写真を撮ったとき、「私達が取材されているようですね」という一言が印象に残っている。様々な団体、地域との連携、協働等々、横の繋がりなくして当塾は生き残れない。
右：吉岡家の庭にある巨大雪見貝化石灯篭を大貫塾生の解説を聞きつつ見入る両氏。気がついたら一時間以上交流していた。両氏は次の取材先に去

っていった。

平成 21 年 5 月 2 日（土）　この日、ウエットランド一行約 50 名が吉岡まちかど博物館へ来館しました。又、我孫子の文化を守る会の方々4 名が来館し、活動上の意見交換し、その後木下地区の五館のまちかど博物館を案内しました。

左:ウエットランド一行　新しい人が沢山いる会である。毎月、野外巡検を行っている。A会長のその心意気、実行力に脱帽です。今年も来てくれてありがとうございます。展示も 19 年度企画展当時のままである。と、言って代わるものがない。今年は秋に短歌連盟と合同で企画展をやる。もっと他団体に活用して欲しい。
右:我孫子の文化を守る会の皆様　我孫子市相島にある「相島芸術文化村」に関与されている方である。木下まち育て塾とはやや異なる活動形態である。それにしても我孫子は活発である。活動主体が一桁違う感じがする。層が厚い。

平成 21 年 4 月 4 日（土）午前 10 時、印西市中央公民館で木下まち育て塾の平成 21 年度定期総会がもたれた。事業計画及び予算が承認された。久しぶりに大勢の塾生が集まった。尤も大勢といっても 15 名であるが木下まち育て塾が実質動員できる最大数であろう。次に主なものを紹介します。日程表等はを参照してください。

1　主な事業計画
①　蔵・町屋の保存活用
A　吉岡まちかど博物館
今年も定期開館事業を柱に次の事業等を行います。
a　鈴木元臣短歌典（仮称）
秋の市民祭り時に於いて、印西短歌連盟と協働して、印西短歌連盟会長を長く勤められ、多くの市民　歌人を 育成し、当塾の　顧問でもあった鈴木元臣氏（昨年 8 月物故）を偲び、氏が書かれ、市民に配布された色紙、短冊を吉岡まちかど博物館一階特　設会場に展示します。味わいある筆で書かれたこれらの作品を是非ご覧下さい。なお、本事業に合わせ、記念の小冊子を作成、販　売予定。
b　改修計画作成
これまでも様々に手を入れてきましたが、老朽化が進んでいる現状に鑑み、来年度の改修事業を前提に、東京電機大学等と改　修計画を作成する。また、開館時に整備した竹垣も秋に伐採、冬に整備します。この竹垣整備は広く市民を集めて協働して行なうこ　とも計画しています。
B　武蔵屋まちかど博物館
市民の皆様に大変好評であった、町屋寄席、町屋雛祭りを行います。
a　紅葉、町家寄席
秋の市民祭りも一段落した 11 月に昨年 12 月初旬に行った町屋寄席を行います。
b　町屋雛祭り
こちらも好評であった町屋雛祭りを行います。地元の方々との協働が雛祭りを盛り上げます。
C　その他　他のまちかど博物館（滝田、イシイ電器、二見屋）でも恒例の一斉開館を秋の市民祭り時に行います。
②　活性化事業
A
a　先進地視察事業
市民を中心にまちづくりをすすめている先進地を市民とともに視察します。時期未定
b　木下むじな池コスモス菜の花畑整備